

令和5年度第2四半期景況調査結果

1. 今期、来期の状況

商工会では管内50事業所を対象に景況調査を実施しています。

この調査は経営者へのヒアリングを通じて四半期ごとに売上高や仕入単価、採算等を産業別（製造業、建設業、小売業、サービス業）にDI値（※）により事業者の業況感を示すことで管内景気動向の参考とするものです。

※DI値とはDiffusion Index（ディフュージョン・インデックス）の略で企業の業況感を指数化したもので、計算式は以下の通りです。

$$DI = \text{「増加」企業数} - \text{「減少」企業数} / \text{回答企業数} \times 100$$

建設業

	今期の状況						来期の見通し				
	R4.7-9	R4.10-12	R5.1-3	R5.4-6	R5.7-9	前期比	R4.10-12	R5.1-3	R5.4-6	R5.7-9	前期比
売上高	▲16	▲42	▲50	▲25	▲9	16	▲33	▲42	▲34	▲18	16
資金繰り	▲17	▲17	▲25	▲9	▲36	▲27	▲8	▲33	▲25	▲18	7
仕入単価	▲50	▲60	▲91	▲64	▲70	▲6	▲70	▲73	▲55	▲70	▲15
採算	▲25	▲25	▲33	▲42	▲55	▲13	▲17	▲50	▲33	▲27	6
業況	▲4	▲25	▲33	▲17	▲36	▲19	▲17	▲33	▲25	▲18	7

製造業

	今期の状況						来期の見通し				
	R4.7-9	R4.10-12	R5.1-3	R5.4-6	R5.7-9	前期比	R4.10-12	R5.1-3	R5.4-6	R5.7-9	前期比
売上高	9	10	27	13	0	▲13	20	0	0	▲29	▲29
資金繰り	▲9	▲10	9	25	0	▲25	0	▲27	0	▲14	▲14
仕入単価	▲70	▲78	▲64	▲63	▲43	20	▲78	▲73	▲63	▲14	49
採算	▲27	▲10	▲27	0	0	0	0	▲36	▲25	0	▲25
業況	▲18	▲10	▲9	▲12	0	12	0	▲45	▲12	0	▲12

小売業

	今期の状況						来期の見通し				
	R4.7-9	R4.10-12	R5.1-3	R5.4-6	R5.7-9	前期比	R4.10-12	R5.1-3	R5.4-6	R5.7-9	前期比
売上高	8	▲8	0	▲50	▲60	▲10	▲42	17	▲12	▲80	▲68
資金繰り	▲33	▲42	▲8	▲38	▲60	▲22	▲33	▲8	▲38	▲60	▲22
仕入単価	▲73	▲91	▲100	▲75	▲40	35	▲91	▲82	▲62	▲40	22
採算	▲33	▲50	▲58	▲75	▲60	15	▲50	▲42	▲50	▲60	▲10
業況	▲42	▲33	▲25	▲62	▲40	22	▲25	9	▲37	▲40	▲3

サービス業

	今期の状況						来期の見通し				
	R4.7-9	R4.10-12	R5.1-3	R5.4-6	R5.7-9	前期比	R4.10-12	R5.1-3	R5.4-6	R5.7-9	前期比
売上高	0	▲33	▲8	30	26	▲4	▲50	▲15	▲40	0	40
資金繰り	▲9	▲25	▲23	10	▲13	▲23	▲42	▲15	▲20	▲25	▲5
仕入単価	▲82	▲92	▲92	▲70	▲62	8	▲75	▲77	▲70	▲50	20
採算	▲45	▲33	▲23	▲20	▲13	7	▲25	▲23	▲20	▲25	▲5
業況	▲45	▲33	▲23	▲20	▲25	▲5	▲33	▲23	▲20	▲13	7

【所感】

「売上高」は、今期（7-9月期）は建設業では改善、それ以外の業種では悪化しています。

来期（10-12月期）は建設業とサービス業で改善、製造業で小幅な悪化、小売業では大幅な悪化を見込んでいます。

「資金繰り」は、全業種で悪化、来期は建設で改善、それ以外で悪化を見込んでいます。

「仕入単価」は、前期に続き値上がり基調で推移しているものの、高止まりしている様子が伺えます。

「採算」は小売り・サービス業で改善、製造業では現状維持、建設業では悪化しました。来期は建設業で改善、それ以外では小幅な悪化を見込んでいます。

「業況」は、製造・小売業で改善、建設・サービス業では悪化しました。来期は逆転し建設・サービス業で改善、製造・小売業で悪化を見込んでいます。

総じて一部の項目で改善の兆しがありつつも、仕入れ価格の転嫁が進まず採算や資金繰りを圧迫している状況が続いています。

2. 設備投資

	R4.7-9	R4.10-12	R5.1-3	R5.4-6	R5.7-9
--	--------	----------	--------	--------	--------

今期設備投資を実施した	0%	16%	6%	11%	0%
実施していない	100%	84%	94%	89%	100%
来期設備投資を予定している	2%	8%	8%	5%	3%
予定していない	98%	92%	92%	95%	97%

今期設備投資を実施した事業所はありませんでした。
来期の予定は3%で、内容は生産設備となっています。

3. 経営上の問題点

	R4.7-9	R4.10-12	R5.1-3	R5.4-6	R5.7-9
原材料価格の上昇	29	30	31	19	13
原材料費、人件費以外の経費の増加	12	14	15	9	12
ニーズの変化への対応	4	8	7	14	7
需要の停滞	9	7	10	9	8
生産設備の不足、老朽化	3	5	4	4	4
従業員の確保難	5	4	3	0	14
人件費の増加	7	4	3	5	2
製品(加工)単価の低下、上昇難	5	3	1	2	1
大企業の進出による競争の悪化		2	3	0	1
熟練技術者の確保難	1	2	1	0	1
新規参入業者の増加		1	1	0	0
原材料の不足		1		1	0
金利負担の増加		1	1	4	0
事業資金の借入難	2	1	1	4	1
取引条件の悪化			1	3	1
その他	5	5	3	1	3

前期に引き続き「原材料価格の上昇」、「原材料費・人件費以外の経費の増加」、「ニーズの変化への対応」等が多くの事業所から問題点として挙げられています。
また、「従業員の確保難」が大きくアップしており、コロナの影響が小さくなり受注量等がコロナ前の水準近くまで回復したためと思われます。

4. 自由記述

大口の依頼が無く、7.8月は仕事が入っていない。9月以降昨年並みの仕事が入る予定。現在、資金繰りが厳しい状況。（建設業）
食材費光熱費等の高騰が経営に響いています。（サービス業）

2-3か月程出前をほぼお休みしており、その分の利益が減少している。単価も上昇し、メニュー内容の精査を進めている。

メニュー価格も50円程度値上げを検討中。（サービス業）

価格上昇への対応と最低賃金の改定による対応をどうするか検討中。（サービス業）

10月に酒の価格改定があり大変です。光熱費やガソリンの値上がりも経営に影響しています。大型店、ドラッグストアの価格にはどうやっても対抗できないので、別のサービスで対応しています。（小売業）

5. コメント

(全国の動向)

8月期の産業全体の業況は、全DIが悪化し、売上額・採算額・資金繰りは小幅な悪化、業況は大幅な悪化となりました。経済活動はコロナ禍前に戻りつつあるものの、酷暑や物価高が妨げとなり需要が伸び切らず、足踏み状態となっています。

(管内の動向)

管内では、相変わらず多くの項目がマイナス基調で推移しており、厳しい経営環境が続いています。

自由記述では思い切った価格の値上げや、価格以外でのお客様満足の向上を図る旨の意見が寄せられました。

事業継続のため、今一度自社のコアコンピタンス（競合他社には真似できない核となる能力）について見つめ直し、中長期事業計画書の作成に取り組んでみましょう。